



平成30年度  
森林・林業技術交流発表会の開催  
技術普及課 (詳細は2～4ページ)

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**180**  
東北森林管理局

CONTENTS

■美しい森林づくり

国民参加の森林づくり活動への取り組み

～「遊々の森」や「モデルプロジェクトの森」における活動～ …… [三陸中部森林管理署]

■我が署の名所

四季折々の八甲田山 …… [青森森林管理署]



## 特集

# 平成30年度森林・林業技術交流発表会の開催

## 技術普及課

1月31(木)、2月1日(金)の2日間、秋田市にぎわい交流館AU(あう)において「平成30年度森林・林業技術交流発表会」を開催しました。

本発表会は、民有林・国有林の関係者等が一堂に会し、森林・林業・木材産業の活性化等を推進するための諸課題に対する取組の情報提供・意見交換等を行い、関係者の技術の普及・向上及び交流の推進に寄与することを目的として、毎年開催しています。

### 〈開会式〉

開会式において、冒頭、主催者である東北森林管理局の小島局長が挨拶をしました。また、来賓として、(社)日本森林技術協会福田理事長、(財)日本森林林業振興会木村秋田支部長、同じく伊藤青森支部長、東北森林管理局林政記者クラブ酒井代表幹事に臨席いただき、来賓を代表して、(社)日本森林技術協会福田理事長からご祝辞を賜りました。

審査員には、秋田県立大学時田教授(審査委員長)、岩手大学國崎准教授(副委員長)、当局小林森林整備部長(副委員長)、森林総合研究所東北支

所梶本支所長、林木育種センター東北育種場田中場長、秋田県林業研究研修センター須田環境経営部長、あきた森づくり活動サポートセンター菅原総括所長、当局島内計画保全部長に審査をいただき、審査員を代表して、秋田県林業研究研修センター須田環境経営部長からご挨拶をいただきました。

また、昨年11月に林野庁で行われた「国有林野事業業務研究発表会」にて、林野庁長官賞(最優秀賞)を受賞した方々(みどりの東北1月号既報)への賞状授与式も行いました。

### 〈発表会〉

今年度の発表課題は「一般の部」の「森林技術部門」19課題、「森林ふれあい部門」8課題、「森林保全部門」4課題の計31課題、「中学・高等学校の部」2課題、合計33課題の発表がありました。

各部門の主な受賞課題は以下のとおりです。

#### ○森林技術部門

##### 最優秀賞

津軽森林管理署金木支署

青山さん、村野さん

#### 青森森林管理署

##### 村下さん

「採材の単純化による歩留向上に向けた取組(仕事はきれいに効率よく)」

多雪地帯では積雪の重みで根曲り木が多く生育し、生産歩留の低下を招いていることから、採材の単純化による新たな作業方法(一番玉を一律2m低質材、二番玉以降を一律4mで採材)を考案し、従来の作業方法と比較しその有効性を検証した結果、新規方法は生産歩留が飛躍的に向上したことを報告しました。

#### ○森林ふれあい部門

##### 最優秀賞

秋田県山本地域振興局

##### 中田さん

「減らそうナラ枯れ!増やそう菌床しいたけ!!」ナラ枯れ拡大防止とナラ材利活用の取り組み」

菌床しいたけの生産規模拡大を目指す八峰町峰浜地区では、菌床培地のオガ粉は全て県外から入手していますが、県と町が協働し、森林の若返りによるナラ枯れ防除策として伐採した地元ナラ材を活用し、ナラ枯れ被害の減少とオール地元産ブランドの菌床しいたけの生産拡大の両立を目指した取り組みについて報告しました。



森林技術部門最優秀賞  
左から：村下さん、青山さん、村野さん



森林ふれあい部門  
最優秀賞 中田さん

○森林保全部門

最優秀賞

東北森林管理局 計画課

根本さん

「宮城県南三陸地域におけるイヌワシの生息環境の再生(CO2)」

宮城県南三陸地域では、官民が連携して、森林資源の循環利用を進め、イヌワシの狩り場ともなる伐採地・造林地を継続的に創出し、林業の成長産業化とイヌワシの生息環境の再生を目指しています。国有林では、イヌワシに配慮した森林施業の方法の提案等に取り組んでいることについて報告しました。



森林保全部門最優秀賞  
根本さん

○中学・高等学校の部

優秀賞

青森県立五所川原農林高等学校

佐藤さんほか

「FSC森林認証 F M認証とCO2C認証取得までの道のり」

FSC森林認証を取得した、五所川原農林高等学校の実習林から生産された認証材を製材しFSC認証製品とした。

販売するためには、CO2C認証が必要とされることから、移動や加工の途中で非認証材と混ざらないようにする手順や管理方法を定めるなどのCO2C管理マニュアルを作成しました。また、製材所の委託先として本校の卒業生が経営している製材所と委託契約を締結する等の取り組みの結果、高校生としては我が国で初となる、CO2C認証を取得したことについて報告しました。



中学・高等学校の部  
優秀賞 佐藤さん

○日本森林技術協会理事長賞

由利森林管理署

蓮尾さん

(財)日本森林林業振興会秋田支部

後藤さん

「無人航空機による空撮画像の活用とその運用(CO2)」

ドローンによる空撮画像の活用には、専門の機材と知識が必要とされますが、ドローンを活用することに対するハードルを下げることを目的とし、汎用性の高いツールをMicrosoft

Officeを用いて開発した結果、本ツールは、汎用性の高さから様々な資料等を作成する際の支援を行うことができ、ドローンで撮影した画像の活用幅を広げ、業務の効率化に繋がることについて報告しました。



日本森林技術協会理事長賞  
蓮尾さん

○日本森林林業振興会会長賞

三陸北部森林管理署久慈支署

(ボランティアチームやまぼんず)

中村さんほか

「ボランティアチームやまぼんず子どもを対象とした森林教室の実施」

子どもや若年層へ森林に興味を持つきっかけを与えることを目的とし、記憶・形に残るものを作ろうと意識しながら、森林教室として五感を使ったバーチャル体験や、火を使った焼き板作り等に取り組みました。参加者からのアンケート結果は好評でした。また県が主催するイベントや市の学童保育所から、開催依頼をいただくようになったと報告しました。



日本森林林業振興会会長賞  
中村さん

○東北森林管理局林政記者クラブ賞

宮城北部森林管理署

佐藤さんほか

「迫川地区民有林直轄治山事業の完了(CO2)」

「平成20年岩手・宮城内陸地震」による山地災害復旧のため、宮城県栗原市において、直接振動型、液状化流動型などの内陸直下型地震による特徴的な崩壊に適する工法等を採用しながら、10年間に渡り実施してきた民有林直轄治山事業について、今年度で事業完了となることから、その経過を報告しました。



東北森林管理局林政記者クラブ賞  
佐藤さん

### ◎特別講演

発表終了後の特別講演は次のとおりです。

#### ○特別講演1

秋田公立美術大学美術学部美術学科

小杉教授

「秋田における市街地木質化について」  
自身が関わった都市木造や木質材料の最新技術をベースに、新築だけでなくリノベーションも含めた都市景観デザイン手法と設計理論の確立を目的とし、秋田駅周辺を中心とした市街地木質化都市計画「秋田ブルーラウンティー構想(Blue City)」を発表。その計画提案から5年間の間に、地域木材をふんだんに使用した「秋田駅待合ラウンジ他」という形で実現し、立体駐車場も外装に地域木材を活用して立て替えられるなど、提案の多くが実現されてきていることについてご講演をいただきました。



特別講演を頂いた小杉様

### ○特別講演2

(国研) 森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター

大平主任研究員

「林木育種センターにおけるスギ1年生苗育成の試み」

原種苗木の早期増産及び次世代精英樹候補木の早期育成を目的とし、スギ1年生苗育成の試みとして、スギ実生苗を対象として、各季節に吸収する養分比率に合わせて肥料設計を行い、同時に施肥量を変えて苗木の育成試験を行いました。その結果、施肥量のコントロールにより、1成長期で実生コンテナ苗を生産する可能性を示したところ、本結果をさし木苗にも適用して原種苗木の早期増産、ひいては特定母樹等優良品種の早期配布に繋げる考えがあるということなど、スギ1年生苗の可能性についてご講演いただきました。



特別講演を頂いた大平様

### ○特別講演3

白石蔵王森林組合

太田代表理事組合長

「3年生コンテナ苗の可能性について」

現在、日本においては、伐採後の植林が行われない森林が多く発生しております。こうした中、播種から1年未満で生産する「3年生コンテナ苗」は、生産期間が短くできることから、育苗コストが抑えられるとともに、需要に合わせた生産がしやすいといったメリットが期待できます。一方で形状比が高く、植栽後の初期成長が遅れるといったデメリットも危惧されているところですが、6成長期後の調査では、旺盛な成長を見せており、通常の方法で育苗したコンテナ苗と比較しても、遜色なく育っているとの報告がありました。



特別講演を頂いた太田様

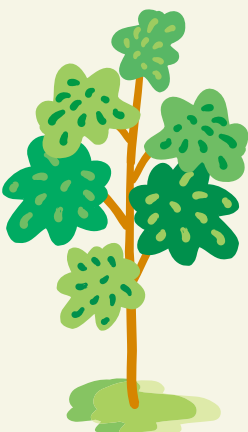
の普及に向けて、さらに生産技術の向上に取り組んでいくとのお話しがありました。

#### 〈講評〉

審査委員長の秋田県立大学蒔田教授から、科学的な検証や比較対象の設定方法などを交えて、発表会全体及び森林技術部門の講評をいただきました。また、審査副委員長の岩手大学國崎准教授からは、森林ふれあい部門と森林保全部門の講評をいただき、同じく小林森林整備部長からは中学・高等学校の部の講評をいただきました。

なお、交流発表会のプログラム、発表要旨、審査結果等については、東北森林管理局のホームページでご覧いただけます。

<http://www.rinya.maf.go.jp/tohoku/sidou/happyoukai.html>



# 美しい森林づくり



## 国民参加の森林づくり活動への取り組み 「遊々の森」や「モデルプロジェクトの森」における活動

### 三陸中部森林管理署

当署管内は岩手県の南東部に位置し、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町の3市2町の森林のうち約2万9千ヘクタール（約23%）を管理経営しています。この森林は、三陸復興国立公園の後背地の優れた景観を呈し、中央部の五葉山周辺の山岳林は五葉山県立自然公園に指定され、レクリエーションや保健休養の場として四季を通じて多くの方々に利用されています。

今回は、学校等による森林環境教育の推進を目的とした「遊々の森」での活動や、地域住民・関係団体等と協働・連携して国有林野の管理経営を実施していく「モデルプロジェクトの森」での活動について紹介します。

### 「遊々の森」産土（うぶすな）の森での林業体験

当署では、平成15年から大船渡市立末崎中学校と、「遊々の森」の協定を締結し、「産土の森」と呼んで、生徒が林業体験を行うフィールドを提供しています。

同中学校では、総合学習の時間で、「海と生きる」のテーマのもと、

1学年はワカメの養殖、2学年はワカメの加工や販売を体験、3学年では、林業体験を通じて「地域の森林と海とのつながり」を学習しています。

林業体験に先だつて、中学校へ署職員が講師として出向き、森林と海との関わりや森林整備の必要性、また、「森林づくりの流れ」、「現地作業での注意点」などを説明するなどの事前学習を行いました。



①事前学習の様子

6月22日の林業体験は、大船渡市末崎山国有林の「遊々の森」において、3学年の生徒32名が参加

し行われました。開会式で菅野署長より「刃物を使用するのでケガをしないように、山を育てるという意識を持って愛情を持って作業にあたること」などと説明の後、署職員が植付けや下刈などのデモンストラーションを行い、作業方法等を確認し、事前学習で学んだことを実際に体験しました。

て、橋野鉄鉱山稼働時代の森林の再生を目指して適切な森林整備を行うとともに、自然教育や歴史教育の場として活用するなど、地域の方々の意見を踏まえた管理を行っていきます。



②植付け作業（シカネットの固定）

### 「モデルプロジェクトの森」で育樹祭開催

2015年に世界遺産に登録された釜石市の「橋野鉄鉱山・高炉跡」周辺の国有林は、釜石市と東北森林管理局が保護協定を結び、「モデルプロジェクトの森」とし



③橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭（開会式）

10月13日に釜石市と当署の共催で、「橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭」を開催しました。地元住民や林業関係者、自治体職員など約60人が参加し、全員で一番高炉跡の東側の国有林内約2ヘクタールの区域でスギの枝打ちを実施した後、菅野署長より「今後も国民参加型の森づくりの活動を広げていく。稼働時代の植生に戻すには長い年月がかかると思うが、地域の皆さんと一歩一歩前に進めていきたい。」と述べて閉会しました。

# 東北育種基本区アカマツ品種選択ツールの開発

国立研究開発法人森林研究・整備機構  
森林総合研究所林木育種センター東北育種場

主任研究員 那須 仁弥

## 1 はじめに

アカマツは、わが国に生育する針葉樹の中で木材の強度が高く、大きな荷重を支える梁などの構造部材として古くから木造建造物に使用されてきました。東北では岩手県を中心とした地域において、戦後からアカマツ造林が盛んに行われ、現在では人工林に蓄積されている木材資源の3割をアカマツが占めています。

近年、岩手県内のアカマツ林でも、マツ材線虫病の枯死被害が確認されるようになり、アカマツ用材が生産されている非感染地域は、供給地として今後ますます重要になることが予想されます。そこで、これらの地域においては、マツ材線虫病に対する抵抗性とアカマツ材の用途にあった性能がともに、優れたアカマツ品種の苗木が求められると考え、苗木生産者や造林者のニーズにあった形質を持つアカマツ品種を選択できるツールの開発に取り組みました。

## 2 品種選択の対象となる形質の検討とツールの開発

強度性能と寸法安定性が保証された製材品や木質材料が求められています。例えば、木材の強度を低下させる節等の欠点を取り除いて十分に乾燥させた挽き板（ラミナ）を貼り合わせて作る集成材は、高品質の木質材料として需要が高まっています。そこで、アカマツ材を集成材として利用することを想定し、久慈のアカマツ素材生産者および加工業者と岩手県林業技術センターから聞き取り調査を行い、ユーザーが注目する形質について検討しました。

アカマツ材の表面に現れる集中節（写真1）、強度性能を低下させる可能性があることから、大きなものはラミナから除去されていました。また、製材の歩留りが良くなることから、節間長（節の間隔）が大きいアカマツ材が求められていました。さらに、木材の強度性能に影響する因子として密度（木材の単位体積あたりの重さ）が重視されていました。

これまでに、アカマツ品種を植栽して青森県、岩手県と宮城県に設定した試験地において、林齢30年まで調査を実施し、成長、幹の通直性と気象害への抵抗性についての評価が行われています。また、マツ材線虫病については、その病原体であるマツノザイセンチュウを苗木に人工接種

する検定を実施し、抵抗性が評価されています。さらに、聞き取り調査の結果からユーザーが注目する形質として選定した節間長と密度および木材の強度性能について、評価した結果を合わせてアカマツ品種選択ツールを開発しました。

## 3 東北育種基本区アカマツ品種選択ツール

今回開発した品種選択ツールは、東北育種基本区（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、新潟県）で選抜されたアカマツ品種（精英樹）について、初期成長、幹の通直性、平均節間長、木材の剛性（負荷を与えた時の変形し難さ）および密度とマツ材線虫病に対する抵抗性の評価値を一覧表形式にまとめたものです。評価値は、5段階で表示され、数字が大きいほど優れています（1:低~5:高）。ユーザーは、プルダウンメニューから各形質について1つまたは複数の評価値を選ぶことによって、求める性能を持つ品種を選定できます（図1）。開発したツールは、東北育種場のホームページにおいて公開しています（<https://www.ffpri.affrc.go.jp/touiku/research/kenkyuseika/touhoku-akamatu-sentak.html>）。

この取組は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「薬剤使用の制約に対応する松くい虫対策技術の刷新」により実施しました。



写真1 アカマツ材の表面に現れた集中節

品種名	選抜地	初期成長			幹の通直性			平均節間長	剛性	木材密度	マツ材線虫病抵抗性	抵抗性品種	抵抗性採種園
		青森県	岩手県	宮城県	青森県	岩手県	宮城県						
1むつ1	青森県	3	3	3	3	3	3	5	5	4	3		
1野辺地1	青森県	4	3	5	3	3	3	3	5	4	3		
1三本木3	青森県	3	3	3	4	4	3	2	3	4	5		
ケ上閉伊101	岩手県	3	4	3	3	2	2	1	3	3	5	○	○
ケ上閉伊102	岩手県	3	3	3	4	4	1	1	3	4	3		○
ケ九戸101	岩手県	4	3	4	4	5	3	3	3	3	3		
1岩手2	岩手県	4	4	4	4	4	4	2	2	2	3		○
1岩手103	岩手県	3	3	3	2	3	2	4	3	5	3		○

図1 東北育種基本区アカマツ品種選択ツールの画面

# 磐井川地区・迫川地区の 民有林直轄治山事業が完了

治山課

東北森林管理局では、管内4地区において民有林直轄治山事業を実施してきましたが、このうち、岩手県一関市において進めてきた「磐井川地区直轄地すべり防止事業」と、宮城県栗原市において進めてきた「迫川地区民有林直轄治山事業」が平成30年度末で完了することとなりました。

民有林直轄治山事業は、民有林における治山事業のうち、事業規模が大きい場合や事業が高度の技術を要する場合などで、かつ国土の保全上特に重要である場合に、県知事からの要望を受け国が直接事業を行うものです。

各地区とも計画した治山施設の整備を終え、今年度末に各県へ引き継がれるの前に、事業完了に伴う記念式典を開催しました。



磐井川地区の記念式典において目録を手渡す小島局長  
(右から大政林野庁治山課長、小島局長、  
達増岩手県知事、勝部一関市長)

式典は、磐井川地区は、平成30年12月18日に一関市内のホテルにおいて、また迫川地区は、平成31年1月24日に栗原市文化会館において開かれ、各地区とも県、市の関係者や施工業者、地元権者の代表等が出席し、これまでの事業の経過を振り返えるとともに、小島局長から各県へ治山施設等引継ぎの目録を手渡しました。

磐井川地区における直轄地すべり防止事業は、一関市に壊滅的な被害をもたらした昭和22年のカスリン台風、23年のアイオン台風による土砂災害を契機に昭和44年度に着手し、地すべりの原因となる地下水を取り除く工法を中心とした対策を実施してきました。



排水トンネル工により集められた地下水  
〔磐井川地区（ニゴリ沢）〕

磐井川地区は平成22年度に事業完了を目指して進めてきましたが、平成20年の岩手・宮城内陸地震により、事業区

域内では大きな被害は発生しなかったものの事業区域に隣接した市野々原地区で大規模な地すべりが発生したため、事業区域を拡大するとともに事業期間を延長し、地すべり防止対策と被災箇所への復旧対策に取り組んでまいりました。

迫川地区における直轄治山事業は、この岩手・宮城内陸地震により宮城県側で発生した山地災害の復旧対策のため、平成21年度から開始した事業です。宮城県栗原市では、この地震により、国内最大級といわれる荒砥沢地すべり（国有林）をはじめ、大規模な地すべりや山腹崩壊、土石流が多数発生しました。東北森林管理局では、復旧対策の円滑な実施のため、当時あまり例のなかった災害復旧を目的とした「宮城山地災害復旧対策室」を開設し、国有林のみならず周辺の民有林においても復旧対策に着手し、地震により荒廃した溪流や崩壊した斜面の復旧として、溪間工や山腹工を中心とした対策を実施してきました。



荒廃溪流復旧のために施工された溪間工及び山腹工  
〔迫川地区（耕英冷沢）〕

## お知らせ 資源活用課 - 林業死亡労働災害多発警報発令 -

林業・木材製造業労働災害防止協会（林災防）本部は、秋田県内の林業における死亡労働災害が多発していることから、林災防秋田県支部に「林業死亡労働災害多発警報」を発令し、「林業労働災害再発防止対策」の実施を指示するとともに、関係行政機関及び林業関係団体等に再発防止対策の実施について協力要請を行いました。

警報発令期間は、平成31年1月18日～平成31年4月末までで、東北森林管理局及び秋田県内森林管理署等においても、関係機関と協力して、林業現場における死亡労働災害の根絶を目指すこととしています。

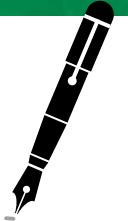
事業主においても現場の自主点検など労働災害防止対策の積極的な実践をお願いします。

これら2地区については今年度末で事業完了となりますが、東北森林管理局では、来年度から民有林直轄治山事業として新たに1地区が事業化されることが決まっており、残る2地区の事業とともに、地域の安全・安心確保に向け管内の各国有林においても引き続き治山事業に取り組んで参ります。



mini  
column

# 三陸沿岸の天然記念物 —コクガン—



藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

東日本大震災から早8年。毎年3月11日を迎えると、当時宮城県で被災した私の脳裏には、仲間の安否確認で何度も足を運んだ南三陸町や、前任地の岩手県陸前高田市の惨状が鮮明に蘇ります①。津波で三陸沿岸の自然は大きく攪乱されましたが、それでも毎年冬になるとシベリア方面からあの“天然記念物”が飛来し、多くのバードウォッチャーを楽しませてくれました。昨年10月、南三陸町の志津川湾がラムサール条約湿地に登録されましたが、登録理由の一つにもなった天然記念物・コクガン②を今回はご紹介します。

コクガンは他の雁類同様、夏に北極圏のツンドラで繁殖した後、越冬のために冬鳥として日本に渡来します。雁といえば宮城県のラムサール湿地・伊豆沼に集結するマガンが冬の風物詩として有名ですが、コクガンは日本にやってくる雁類で唯一、海で冬を越します。それは彼らの食習慣が大きく関わっています。

マガンは水田の落穂や畔の草本類等をついばむ

のに対し、コクガンはアオノリ等の海藻類やアマモ等の海草類を食べるのです③④。山から染み出た小沢が海に流れ込むような所では、時折上陸して喉を潤す姿も見られます⑤。海岸線ギリギリまで山が迫る三陸沿岸は、山のミネラル分が海に流れ込むことにより豊かな藻場が発達するのでしょうか。青森県から宮城県の広範囲にわたり、コクガンを観察できるポイントが点在しています。

青森県八戸市から福島県相馬市までを繋ぐ“みちのく潮風トレイル⑥”が、いよいよ全線開通します。写真②④⑤は岩手県洋野町ルートで、③は青森県八戸市ルートで撮影したもので、このトレイルは野鳥の観察には最適です。もうすぐ冬鳥のコクガン達は北へ旅立ちますが、山や川も辿るこのトレイルでは、南からやってくる夏鳥のオオルリ達にも沢山出会えます。もうすぐ春の行楽シーズン。潮風薫るトレイルへ、復興に向かう三陸沿岸の自然を満喫しに行きましょう。



①奇跡の一本松 (2011年12月)



②飛翔するコクガン



③岩場の海藻類を摂食



④海中の海草類を摂食



⑤上陸して水分補給



⑥岩手県久慈市ルート・横沼展望所より





# 森林官からの手紙

## 初めての森林事務所勤務

宮城北部森林管理署 石巻森林事務所 一般職員

村山 優弥



①国有林から見る海

から見る海など美しい景色が満載です。海岸線では東日本大震災からの復興工事が続いており、復興の兆しは感じられますがまだ道の途中です。現在の事務所は鮎川森林事務所との合同事務

初めて森林事務所配属となり早くも一年がたとうとしています。業務がほぼ一回りし、そろそろ落ち着けるなどと思っていた矢先このページの順番が来てしまいました。なにを書こうかピンとこないで、今年度ほぼ一年の間で印象的だった事について書いていこうと思います。まずは石巻森林事務所について軽くご紹介します。当事務所は東松島市と石巻市の一部(旧石巻市、河北町、北上町、雄勝町)の国有林約5千haを管轄しています。国有林は海岸防災林、市街地の裏山、小さな半島などに比較的小規模に点在しており、面積は小さいながらも多様な環境を有しています。管内には北上川、特別名勝松島(の端)そして国有林



②国有林のヨシと北上川河口

雄勝地区の国有林ではトレイルランニング大会が開催されます。残念ながら今年度が最後の開催となってしまい、参加することはできませんでした。他に環境省の潮風トレイルも一部国有林内を通っ

所で、鮎川森林官と現場系非常勤職員の方々に学びながら業務に励んでいます。当事務所管内には特徴的な副産物があります。管内を流れる北上川河口部はヨシの一大生産地となつていますが、ヨシは国有林からも生産されています。あまり見かけることのない茅葺き屋根ですが、質の良いヨシは貴重な材料となります。他にも国有林から採れる雄勝石は硯や皿などの工芸品の材料として活用されています。



③作業員の皆さんと今日の現場へ

ており、良いトレイル環境があります。国有林のスポーツ利用には可能性を感じているので、こうした利用を発展させられればと考えています。最後になりましたが、当事務所は測定事業の量がかなり多く、非常勤職員の方々の力を借りながら奮闘しています。宝探しのようになつてもりで楽しく(進捗を確認するたび軽く絶望しながら)歩き回っています。現在まだ道半ばですが、がんばります!



大岳中腹から井戸岳、赤倉岳を望む



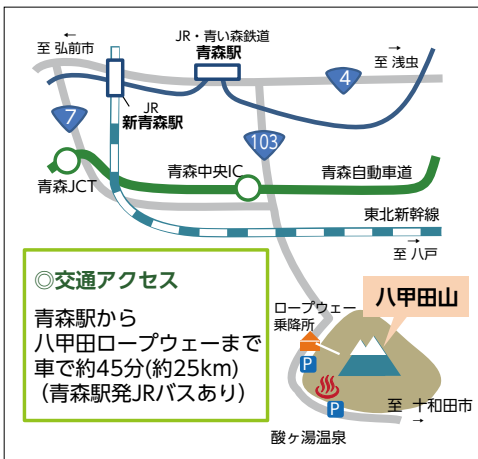
青森市萱野茶屋から眺む八甲田山



樹氷を楽しむツアーク



初夏の上毛無岱



青森森林管理署

〒038-0011 青森市篠田3丁目22-16

TEL 017-781-0131

FAX 017-766-3775

また、豪雪で有名な「酸ヶ湯温泉」や明治35年に青森の歩兵第五連隊の210名中199名が遭難した事件（八甲田雪中行軍遭難事件）を基に制作された映画「八甲田山」の舞台としても知られています。

八甲田山には湿原が多く、イワイチヨウ、モウセンゴケ、ミズバショウなど、山にはアオモリトドマツ（オオシラビソ）の林、稜線にはハイマツが茂り、6月頃にはチングルマ、ヒナザクラ、シヨウジョウバカマ、イワカガミ、ワタスゲなどの多くの高山植物が見られ、中腹の上毛無岱・下毛無岱の周辺は多くの登山者で賑わいます。

また、厳冬のロープウェイ山頂駅付近では、多くの樹氷を間近に見られることから、国内外から多くの観光客が訪れ、その見事な造形と雄大な眺めを楽しんでいます。

四季を通じて風光明媚な八甲田山を一度訪れてはみませんか。

# 我が署の名所

## 四季折々の八甲田山

青森森林管理署管内  
青森県青森市

